

2020.8.8

回答書における事実との相違、さいたま市の実情等について

教学指1第1986号

令和2年7月28日

様

さいたま市教育委員会事務局学校教育部

指導1課長

「小学校英語トライアル」の実施に関する質問書について（回答）

令和2年7月8日付でご質問頂きました事情について、次のとおり回答いたします。

1 開発段階の「小学校英語トライアル」を授業時間に実施する理由について

本市では、「グローバル・スタディ」導入から4年を経過して、**小学校での英語教育が定着しつつある**中、客観的なデータに基づいた効果測定を実施し、経過を検証することで、「グローバル・スタディ」のさらなる充実を図ってまいりたいと考えております。

「小学校英語トライアル」は、確かに「トライアル版」でございますが、自治体や児童に対するフィードバックがわかりやすいこと、**難易度**や受験時間が適切であるなど、完成度が高いことから、教育委員会が実施を決定いたしました。

【小学校での英語教育が定着しつつある】 【難易度】 について

- ・昨年度のさいたま市は「さいたま市G・Sテキスト」が主。今年度は似た単元は教科書とG・Sテキストを併用だが、テーマが似ているだけでキーセンテンスが違うなど、教えにくく子どもにとっても負担が大きい。「定着しつつある」どころか、未だ混乱の渦中にある状況。
- ・昨年の「英語トライアル」リスニング+リーディング2技能効果測定は、文科省配付教材「We Can!」に準拠した内容だった。
- ・モニター校として昨年テストを受けたが、「読み」はそんなに長い文章ではなく、普段ふつうに授業を聞いていれば答えられるような簡単な内容だった。リスニングはCDをかけて行う方法だった。難易度はすごく簡単だった。

2 「小学校英語トライアル」を選んだ根拠となる「全国標準での英語の学力」の内容について

「全国標準での英語の学力」とは、全国規模のデータをもとに分析した客観的な指標に基づいて測定された英語力を指しております。**全国的に展開されている日本英語検定協会**が作成する「小学校英語トライアル」で測定される技能別のスコアにより、**客観的に英語力が測定できる**と判断いたしました。

【全国的に展開されている日本英語検定協会】【客観的に英語力が測定できる】

- ・英語検定協会は昨年度の大学入試において受験生に以下のようなメールを複数回送った（1月末ま

でに3回)。検討を重ねて作成した「トライアル版」でないテストさえ、自らの試験内容の「客観性」を把握できていない。高校生のテスト得点を「お金で買う」企業倫理にも問題はないか。

英語検定試験に関するアンケートのお知らせ

(高校3年生限定)2020年01月15日

高校3年生限定！英語検定試験アンケート(ご協力いただいた方には、Amazonギフト券進呈)のお知らせ

- ① 実用英語技能検定(英検®)
1級～3級(CBT版含む)
- ② TEAP®
- ③ TEAP CBT®
- ④ GTEC®
- ⑤ GTEC® CBT
- ⑥ ケンブリッジ英語検定
- ⑦ TOEIC® LR+SW
- ⑧ TOEFL iBT®
- ⑨ IELTS
- ⑩ センター試験「英語」(※)

※@センター試験「英語」は2020年1月19日(日)以降のご回答を有効とします

謝礼

Amazonギフト券(Eメールタイプ)1,000円～9,000円相当

※ご回答いただく英語検定試験の種類により謝礼額は異なります

- ・ 2種類:1,000円相当
- ・ 3種類:2,000円相当
- ・ 4種類:3,000円相当
- ・ 5種類:4,000円相当
- ・ 6種類:5,000円相当
- ・ 7種類:6,000円相当
- ・ 8種類:7,000円相当
- ・ 9種類:8,000円相当
- ・ 10種類:9,000円相当

☐

下記URLにアクセスしていただき、

氏名、生年月日、メールアドレス、各英語検定試験の受験日、技能別スコアを入力の上、成績証明書の必要な情報が明瞭に読み取れる画像をアップロードしてください。センター試験「英語」は自己採点結果のご入力のみで、成績証明書のアップロードは不要です。また、最後に簡単なアンケートへのご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先

日本英語検定協会 英語試験アンケート調査係 E-mail:survey1@eiken.or.jp

3 現場の先生方の意見の反映について

教育委員会では、様々な機会をとらえ教員の意見や考えを聞き取り、その意見等を反映するなどして、施策を決定しております。

英語教育に関しましても、各学校への指導訪問、G・S科主任研修会、G・S科専科教員研修会等において、G・Sを受け持つ教員から、児童生徒の客観的な英語力についての疑問や意見を聞いており、それらの意見も踏まえ、小学校での効果測定の必要性を議論してまいりました。その結果、小学校6年生への英語効果測定が必要と判断し、決定したところでございます。

なお、実施に当たっては、昨年度中に市立学校校長研究協議会等において各小学校の校長に対し丁寧に説明し、周知してまいりました。校長を通じて、各校において、理解を得ているものと認識しております。

【G・S科主任研修会、G・S科専科教員研修会等でテスト実施に関わるような疑問や意見があったか】

○G・S専科の声(4人から)

- ・「G・S専科に相談したようなことは全くなかった。急に実施するから希望日をとと言われて驚いた」
- ・「研修会でそんな話は出ていなかった」
- ・「どんなテストかも分からないのに、急に全員実施ときた」
- ・「こんな時期に、しかも急にやるなんておかしい」
- ・「市教委が決めたのだから、少なくとも保護者への説明の仕方を示してほしい」
- ・「保護者向けの手紙のサンプルがついていたが、いつ配るのかも聞いていない。」

→ 少なくとも研修会では、全体の場で回答に示されたような事実はなかった。各学校のG・S担当者も文書で初めて知った。また、その文書に対する説明も全くないので、添付されていた保護者向け便りすら、

1学期中に配った学校、指示がないので配っていない学校とばらつきがある。

○校長の声や職場の実態 7月から8月にかけて十数校に確認

・「確かにやるという説明はあったが、いつの会議だったか…。(よく覚えていないくらいの認識)」

・「学校で全く話題になっていない。」「知らなかった」「6年担任も知らないと言っている。」

→ 現状では校長から「丁寧な説明」を伝達された学校は見当たらない。

回答から、市教委は校長にすら意見を求めず、「説明をし」たら「周知」され、「各校において、理解を得られる」と認識しているようだ。教育長の「現場主義に徹する」(教育長再任あいさつ)とは一体何か。

4 様々な行事が延期や中止されている中、「英語トライアル」が昨年決定された通りの日程で行うことについて

子どもの英語力を客観的に図ることは大切であり、さらに、その結果を反映して指導に生かすことも大切であると考えます。フィードバックをもとに、児童が自分の学習を見直したり、教員が指導を改善したりするためには、一定の期間が必要であることから、当初の予定通りの2学期上旬に実施することといたしました。

【2学期上旬の実施】

・「3か月に及ぶ不安定な毎日を過ごす中、心の元気を失っている子どもたちもいる」(5/25 教育長メール)のを承知で、未だ収まらないコロナ禍の中でも当初の予定の日程を強いる。子どもたちのケアより、「英語力の測定が大切」という実施者の姿勢が見て取れる。

・英語教育の研究者からは

「さいたま市の小学校6年生はこの4ヶ月間どれだけ学校の授業ができたのでしょうか。このまま試験をしないと学校で授業をまともにやれなかったのに試験することになり、結果として学校以外で英語の勉強ができる一部の子どもだけを評価することになります。さいたま市教育委員会はそのような差別的なことを行うことをすすめるのでしょうか。」(瀧口 優氏)と指摘されている。

【英語力を客観的に図ることは大切】

・「客観的に」物事をはかるには、条件をそろえることが必要だと思われる。

さいたま市内では専科の配置が十分でなく、多忙な担任がG・Sを受け持っている学校が多数ある。条件整備が先である。また今年度、長期にわたる休校から各学校で年間指導計画を大幅に変更している。健康面への配慮や限られた条件の中で、授業の実施状況にも例年と比べ大きな違いが生じている。今年「英語トライアル」を行う必然性は全く存在しない。回答からも読み取れない。

・「英語トライアル」の「客観性」については前述の通り。

・なぜ「大切」なのか根拠が不明のため、回答として成立していない。

担当：教育委員会事務局学校教育部 指導1課 国際教育係

直通048-829-1662 FAX 048-829-1990

E-mail:kyoiku-shido1@city.saitama.lg.jp